

学校教育目標	「お互いを大切にし、主体的に学び続ける児童の育成」 校訓「かしく やさしく たくましく やりぬく」	経営理念	めざす学校像「わかる できる かわる たのしい学校」 教職員が一体となり、家庭・地域と共に、これからの社会を力強く生き抜くために必要な資質・能力「知識・技能、課題発見・解決能力、自己調整力、協働性」の育成を目指した主体的な学びを促す教育活動を推進する。
--------	--	------	---

評価計画				自己評価				学校運営協議会による評価		改善方針				
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							9月	1月						
1	確かな学力の向上	自ら学びを求める児童の育成	〇「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇学力の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる、できる楽しさ」のある日々の授業づくり</li> <li>・研究推進による授業改善</li> <li>〇新学習「くぐんタイム」の充実</li> </ul> </li> <li>〇学力の実態調査               <ul style="list-style-type: none"> <li>・NRT・標準学力調査の正答率</li> <li>40%未満の児童の割合【0%以下】</li> <li>〇児童による意識調査                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」に関する項目</li> <li>肯定的評価【80%以上】</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	10%	国17% 算14%	国11% 算13%	国98.9% 算96.7%	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇校内研究等を通して授業改善を行ってきたが、学力向上には至らなかった。朝の学習時間(くぐんタイム)等の効果的な活用、小テストや繰り返し学習の系統的实施、適用問題に取り組ませる時間を十分に確保できていなかったことが課題として挙げられる。</li> <li>〇校内研究において、今年度重点を置いた「関わり合いの場」の充実により、一人では解決が困難な課題に対して、友達の説明を参考に粘り強(取り組む)とする姿が見られた。さらに「振り返り」の視点では、既習事項の揭示や前時のつながりを意識した導入の工夫が、児童の思考のヒントとなり、様々な方法を考えようとする姿につながった。今後は、「安心感のある学級経営」を共通実践とし、児童が「失敗を恐れず、安心して自分を表現できる」学習集団の構築を行っていく必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性を伸ばすための基礎学力の定着も必要で、しっかり分けて考えられていてよい。</li> <li>・友達の説明をよく聞いている姿が、授業の中でよく見られた。</li> <li>・くぐんタイムの取組により、自分で考える力をまず付けて、楽しんで勉強できる環境を整えてほしい。</li> <li>・教師間の連携に努めて児童への指導を行ってほしい。</li> <li>・学力は個人差があるので一人一人をよく見ることが大切である。</li> <li>・内容を精査し、必要な事項を精選していく。</li> <li>・教師が思う安心感と児童にとってのそれが同じ方向なのか確認が必要なのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎くぐんタイムの内容を精選し、全校統一で取り組む。</li> <li>◎適用問題の設定、自分で選択して学習に取り組む場の設定。</li> <li>◎対話・振り返りの質的向上。</li> <li>◎授業実践を通して安心感のある学習集団を育成。</li> </ul>
					〇1人1台端末活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇児童による意識調査               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1人1台端末の活用」に関する項目</li> <li>「週3回以上」【90%以上】</li> </ul> </li> </ul>	90%	69% (低20% 高100%)	72% (低19% 中89% 高100%)	81%	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇ICT支援員の活用によってわすかだが達成値が上がった。校内研修などにより、教職員の活用実践の機会も増えてきた。低学年の授業における活用については課題が残る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年は活用が難しい面もあるが、興味関心に応じて適切に指導をしてほしい。</li> <li>・うまくいっている活用例を授業で見せてもらいたい。</li> </ul>
2	豊かな心の育成	自己指導能力を身に付けた児童の育成	〇「自分で考えて、決めて、実行する」適切な言動ができる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇児童と教職員、児童同士の信頼関係の構築</li> <li>・発達支持的生徒指導</li> <li>・学年経営の推進</li> <li>・異学年交流の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇児童、教職員による意識調査</li> <li>・「行動・言動」に関する項目</li> <li>肯定的評価【80%以上】</li> </ul>	80%	児童91.6% 教職員75%	児童91.9% 教職員88.0%	112%	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇学年で統一した指導を進めたり、委員会活動を活発に行ったりすることで、児童同士が関わる機会を増やすことができた。</li> <li>〇「あいさつ・返事」や「優しい言葉遣い」といった、人とのコミュニケーションのとおり方により課題が見られる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あったか言葉の掲示は、大変よい。他の人にも見てもらうことでいい気持ちになれる。</li> <li>・児童主体での活動があり指導方法・工夫が見られる。</li> <li>・委員会活動の具体的な様子を聞かせてもらい子供たちをしっかりと伸ばしてもらっていると感じる。</li> <li>・児童と教師の達成値がほぼ同等なので、同じ意識になっていることがうかがえる。</li> <li>・コミュニケーションにおける課題を把握し取組を講じる必要がある。</li> <li>・個性を伸ばす指導をしてほしい。</li> <li>・継続的な声かけが必要だと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎一貫した指導となるために、指導内容の情報を整理・共有したり、マニュアル化したりする。</li> <li>◎児童同士が関わり合う活動を、委員会活動を中心に多計画する。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>〇目標設定、実践、振り返りの継続的・日常的な実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇生活目標の振り返り</li> <li>・各学級の自己評価</li> <li>肯定的評価【80%以上】</li> </ul>	80%	80%	83.3%	104%	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇各月に重点目標を設定するとともに、学級の実態に合わせて振り返りを通じて、意識の向上につなげられた。</li> <li>〇今後定期的に学級・学校全体で生活目標について振り返る機会をもち、年間を通して積極的に指導する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に目標を設定することは大切。児童へのフィードバックもしっかりしてほしい。いろんな先生からフィードバックしてもらえたら子供たちもうれしいと思う。</li> <li>・目標設定をあまり高くせず、達成できるように設定していくのほどどうか。</li> <li>・新聞などの切り抜きも指導に活用してはどうか。</li> <li>・家庭での生活でもこうした実態を反映できるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生活目標から重点目標を設定し、学級・学校ごとに振り返る機会を日常的に設ける。</li> <li>◎取組のフィードバックを充実させる。</li> </ul>
3	たくましい体の育成	運動好きで、自分の体や健康に関心をもつ児童の育成	〇運動好きな児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇体育科の授業改善</li> <li>・運動量の確保</li> <li>・課題意識をもたせる手立て</li> <li>〇運動の「日常化」の推進</li> <li>・校内体育的活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇児童、教職員による意識調査</li> <li>・「運動が好き」「運動量」「課題意識」に関する項目</li> <li>肯定的評価【80%以上】</li> </ul>	80%	運動好き94.5% 運動量87.7% 課題意識94.1%	91.4% 運動量85.7% 課題意識91.8%	112%	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇準備運動のみならずトレーニングやみながんびックの縄跳びの活動、体育委員会による全校遊び、月一回以上のクラス遊びなど様々な活動によって運動が好きな児童が多い状態を維持できた。</li> <li>〇体育科の授業では、技のポイントを短く示したり、仲間と教えあう時間をとったりすることを意識する教員が増え、児童が課題意識をもって活動に取り組むことができるようになってきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを取り入れて楽しく活動できている。</li> <li>・全校児童で遊ぶ機会を作り、運動がしつかり楽しめる子供たちに育ててほしい。</li> <li>・大綱など少しの運動でも継続して行える場をつくってほしい。</li> <li>・児童により差があるので、臨機応変に取り組んでほしい。</li> <li>・体力があつての知育、遊びの中から体力の向上を。</li> <li>・児童にとって、遊ぶ時間が日常生活の潤いになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎課題意識を持たせるための手立てや運動量を確保する授業づくりについて研修を行う。</li> <li>◎楽しく体を動かす取組を継続していく。</li> </ul>
				〇生活習慣が整った児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇健康教育の充実</li> <li>・日常に生かす保健指導</li> <li>・計画的な食育指導</li> <li>〇保護者啓発</li> <li>・各種イベントの記事掲載</li> <li>・PTA活動との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇児童による意識調査</li> <li>・生活習慣(メディア利用を含む)に関する項目</li> <li>肯定的評価【80%以上】</li> </ul>	80%	睡眠時間69.5% メディア利用55.9%	睡眠時間56.9% メディア利用56.8%	71%	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇生活習慣をよくなるために保健指導や保健委員会によるポスターの作成、SNSの活用についての通信などで啓発を行ってきた。しかし、学年が上がることによりメディアの活用時間が増え、それに伴って睡眠時間が減っている実態が続いている。今まで以上に不規則な生活による健康被害も伝えたり、外部講師との連携を図ったりすることで、生活習慣を守ることがより意識させるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠時間が減っている要因について対策を考える上で、様々な視点から検討する必要がある。</li> <li>・学校だけでなく家庭でも話し合いをできる環境をつくるのが大切である。</li> <li>・SNSの諸問題は非常に難しい面がある。健康被害に要注意の必要がある。</li> <li>・高学年では、自分の一日の生活時間を自分で設定し、一年かけて取り組ませるのはどうか。</li> </ul>
4	信頼される学校づくり	教職員が元気で、保護者や地域に開かれた安心安全な学校づくり	〇地域と関わる学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇児童の教育活動と地域との連携による、教育活動の充実と貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇地域と連携した教育活動【各学年1回以上】</li> </ul>	各学年1回以上	100%	100%	100%	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇担任とCS推進員が連携しながら、各所やゲストティーチャーとめあてを共有し活動を実施することで、充実した活動となり、児童の学びも深まった。</li> <li>〇月一回の地域との連携会を継続したり、来年度のカリキュラム改善を図ったりし、より地域に開かれたカリキュラムとなるようにする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月連携会をもつことはよい。</li> <li>・地域と学校が連携した活動は児童により影響があると思うので今後も取組を進めてほしい。</li> <li>・家庭も地域だと考えて、いっしょに取り組む仕組みを作ってみてもいいのかもしれない。</li> <li>・学びの中から将来役立つ何かが残れば大変素晴らしいと思う。</li> <li>・地域人材が増えるようにアンテナを張ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎カリキュラムマネジメント研修を実施し、地域貢献を視野に入れた、児童にとって学ぶ必然性のある課題解決型学習をめざす。</li> <li>◎まちづくり協議会及び学校地域協働活動推進員との連携会を継続する。</li> </ul>
				〇働きがいのある職場づくりの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇教師による意識調査</li> <li>・「働きがい」「子供と向き合う時間」に関する項目</li> <li>肯定的評価【90%】</li> <li>〇月に4回以上定時退校した教職員【80%】</li> </ul>	90%	91.2%	94.2%	103%	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇会議の精選や校務のDX化、質の向上をめざした取組の精選を推進するとともに、タイムマネジメントを意識した働き方を推進したことが結果につながった。</li> <li>〇主な学校行事等は、PTA執行部との連携のもと、理解を得ながら精選に取り組んだ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働きがいを感じる職場づくりは先生方にとっても大切なことで、子供たちと接する時間も大切しながらバランスよく働いていただきたい。</li> <li>・先生方がどんなことを学んでいるかも共有すると地域からの理解が深まるかもしれない。</li> <li>・学校だよりの中に年に一度くらい保護者・地域の声があればよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎学校だより等で情報発信をし、保護者・地域と協働、連携しながら、安心安全で働きがいのある学校づくりを推進していく。</li> </ul>

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示する

■自己評価

4...目標を上回って達成  
2...目標をやや下回って達成  
達成

3...目標どおり達成  
1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)

A...とても適切である  
B...概ね適切である  
C...あまり適切でない  
D...全く適切でない  
(N...判断できない)